

佐賀大学

1. 地域連携の好事例

① 再生可能エネルギー等イノベーション共創プラットフォーム(CIREn)

佐賀県と共に企業、研究機関、NGO等の交流を通じたオープンイノベーションによる研究開発や事業モデルの創出を推進。日本・世界の再生可能エネルギー普及拡大への貢献を目指し、洋上風力発電、海洋温度差発電関連技術、無線電力伝送などの研究を実施。



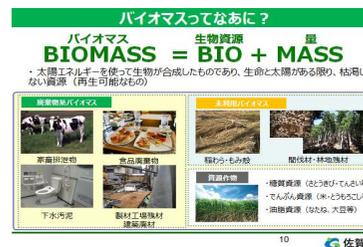
② 温泉水を活用した新たな省エネ発電システムの開発・実証

佐賀県の再生可能エネルギー等先進県実現化構想に基づく補助事業を活用し、温泉水を利用した新しい発電システム（ハイブリッド温泉温度差発電システム：H-STEC）を佐賀県嬉野市に設置し、温泉水を活用した省エネ化への貢献を目指した実証研究を実施。



③ 微細藻類バイオマス研究プロジェクト（Project SA）

CO₂を活用した新しい藻類産業の創出を目指すバイオマス産業都市・佐賀市と連携し、佐賀大学内に藻類の有効利用に関する基盤研究プロジェクト（Project SA）を設置。佐賀市設立の「さが藻類バイオマス協議会」を通じ、藻類関連技術の育成、産業化支援を実施。





2. 地域連携における課題

研究成果
⇕
地域課題解決

- ・研究者は最先端の研究を行って研究成果を出すことが求められるが、それらの研究成果が実際の地域課題の解決につながるとは限らない。
- ・特定地域の課題解決を重視すると、研究に求められる学術的意義を担保できない。

大学側
⇕
地域自治体側

- ・大学が特定地域の課題解決の取り組みを行った場合、大学側からは課題解決につながった成果が見えにくい。
- ・また、特定地域自治体側からは、大学が行っていることが、どう地域課題の解決につながるのか理解されにくい。

成果の共有
⇕
評価の共有

- ・上記を解決するため、協議体を設置して、マッチングや成果を共有することが課題。
- ・協議体においては、双方向から取り組みの評価をすることが課題。

3. その他特徴的な取り組み

<p>学生ecoボランティア</p> <ul style="list-style-type: none">★Ecoアクション学生委員会Earth★えこいく（佐賀環境フォーラム環境教育班）  	<p>環境教育</p> <ul style="list-style-type: none">★佐賀の環境（教養科目） 
---	---

4. 地域ゼロカーボンワーキンググループに期待すること、幹事機関・事務局へのリクエスト

ゼロカーボンワーキングにおける活動を通して、各大学のユニークなゼロカーボンにつながる取り組みが共有され、結果として、各大学のアピールにつながることを期待する。

5. 地域ゼロカーボンワーキンググループへの意気込み・積極的な一言

佐賀発の自治体連携カーボンニュートラルの取り組みをアピールしていきたい。